

『21世紀国土交通のグランドデザイン』 の策定に向けて

国土交通省総合政策局政策課政策調査専門官

かなざわ ふみひこ
金澤 文彦



はじめに

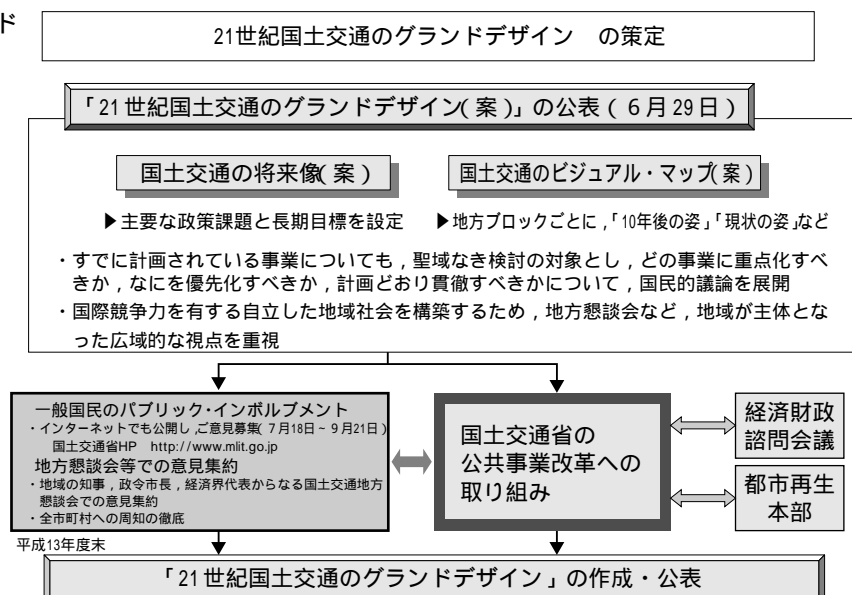
社会資本整備については、これまで全総、各種5箇年計画などに基づいて、着実な整備が進められてきた。これにより、戦後欧米と比較して著しく立ち遅れていた社会資本を計画的かつ効率的に整備を行い、国民生活の向上に一定の役割を果たしている。

近年、環境問題の深刻化、少子・高齢化、国際化の進展など経済・社会を取り巻く情勢が変化し、国民の価値観が多様化するなか、整備の進め

方などについてさまざまな批判がなされてきた。例えば、公共投資についてムダがある、高コストである、一度はじめたら止める仕組みがない、分野別配分が硬直化しているなど。このため、これまでも、予算の重要分野への重点化、コスト縮減対策の実施、事業評価制度、アカウントビリティーの向上に向けた取り組み、入札契約制度の改革など社会資本整備の透明性、効率性などの確保に向けて努力してきたところである。

一方、90年代に入って、景気の調整局面入り、バブル経済崩壊、円高等の影響により、わが国経済は厳しい状況に直面することとなった。こうし

図 1 『21世紀国土交通のグランドデザイン』の策定



た状況を踏まえ、補正予算を伴う累次の経済対策が実施され、公共投資等の拡大など事業規模130兆円を超える財政上の措置がなされた。これにより、低迷する経済に対して一定の下支え効果があったとの分析もなされている。ところが、現在、民需の低迷を起因として長期的な経済の低迷が続いており、また、国と地方は約666兆円（平成13年度末見込み）といった長期債務を抱え、財政状況はきわめて厳しい状況である。このため、歳出構造の見直し、限られた財政資金の効率的かつ重点的な活用が求められている。

現在、政府は日本経済の再生を目指すため『今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針』を閣議決定し、概算要求に反映するとともに、それを具体化する「改革工程表」を作成し、平成14年度予算編成作業を進めている。

このような中で、国土交通省として所管する社会資本整備の今後のあり方などに関して国民各層からご意見・ご提案をいただき、それを参考にするとともに、各地方ブロックでの意見集約も踏まえて、国土交通省所管の社会資本整備等について具体的な将来像を示す『21世紀国土交通のグランドデザイン』を策定することとしている（図1）。



2 これまでの経緯

今年1月6日に国土交通省が発足し、その際、『国土交通省の使命、目標、仕事の進め方』を公表し、国土交通行政の使命、五つの目標、民間・地方公共団体との役割分担、仕事の進め方の改革を明らかにしている。

また、2月から4月にかけて国土交通大臣出席のもと、沖縄を除く全国10ブロックで国土交通地方懇談会が開催され、10年後の各ブロックの具体的な姿をもとに、県益を超えた広域的な視点での意見交換も行われた。

（国土交通地方懇談会の目的）

① 国土交通省と地域（地方行政、経済界）の最高責任者が総合的かつ横断的な観点から地域の

課題や将来像などについて実質的な議論を展開

② 国土のグランドデザインにつながる地域関係者の連携強化と共通認識の醸成を進めること

③ 国と地域とのオープンで透明な関係を確立

これらの取り組みをもとに、『21世紀国土交通のグランドデザイン（案）』を作成し、平成13年6月29日の閣議後記者会見で、国土交通大臣から、国民的な議論を展開するための“たたき台”として公表した。

その後、7月～9月にかけてインターネット上で、国民の皆様からご意見などを募集（PI）するとともに、CD ROMを各地方公共団体に配布した。現在、国民の皆様や地方公共団体などから提出していただいたご意見等を取りまとめているところである。



『21世紀国土交通のグランドデザイン（案）』の内容

『21世紀国土交通のグランドデザイン（案）』は、現行の五箇年計画など各種法定事業計画や公共事業に関する制度・手法などを前提としたものであり、国土交通省所管の社会資本整備等に関する今後の具体的な目標を、以下の『国土交通の将来像（案）』と『国土交通のビジュアル・マップ（案）』で分かりやすく示している。

① 『国土交通の将来像（案）』

『国土交通の将来像（案）』は、「国土交通省の使命、目標、仕事の進め方」（平成13年1月策定）で示された『5つの目標』を基本に、具体的な15の政策課題と21世紀初頭の長期的な目標値（アウトカム指標等）などを体系的に整理している（図2）。

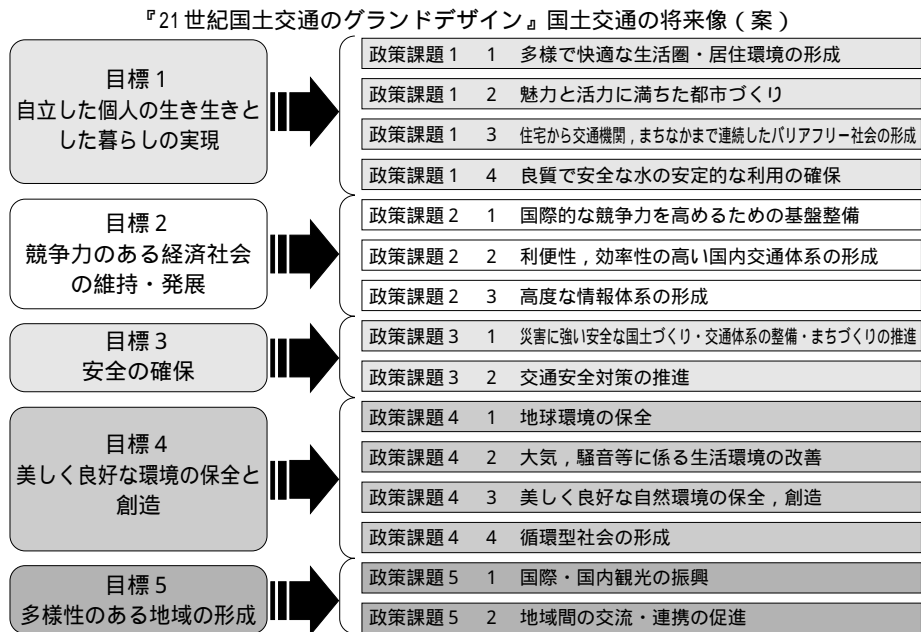
例えば、長期的目標値として、次のような整備指標例と目標値を示している。

図2（例）は『国土交通の将来像（案）』に記載した一部を抜粋したものである。

② 『国土交通のビジュアル・マップ（案）』

『国土交通のビジュアル・マップ（案）』は、『国土交通の将来像（案）』を実現するための主要事業の見通しがよく分かるように、地方ブロック

図 2 国土交通の将来像
(案)



(例)

目標	政策課題	整備指標例	現況値(測定年次)	長期的目標値(目標年次)
目標 1	1 1	・誘導居住水準の達成率	46.5% (平成10年)	すべての都市圏で半数の世帯が達成(平成22年度)
目標 2	2 1	・主要な空港・港湾への連絡率	空港: 46%, 港湾: 32% 合計: 36% (平成12年度末)	約9割(21世紀初頭)
目標 3	3 2	・港湾におけるプレジャーボートの適正な係留・保管率	約45% (平成8年)	約8割(21世紀初頭)
目標 4	4 2	・夜間要請限度達成率	75% (平成9年度末)	おおむね達成(21世紀初頭)
目標 5	5 1	・訪日外国人旅行者数	476万人(平成12年)	800万人(おおむね平成19年めど)

単位でビジュアルに記載したものである。2月から4月にかけて実施された国土交通地方懇談会の議論を踏まえ、国土交通省(本省, 地方整備局, 北海道開発局, 地方運輸局, 地方航空局, 沖縄総合事務局)が地方公共団体, 経済界と連携して作成している(図 3)。



4 今後の予定

今後, 国と地方が適切な役割分担のもと, 県益を超えた広域的な視点から協調・協力し, 地方ブロック単位で地域が主体となり, 共通認識の形成に向けてご意見・ご提案を集約することとしている。

また, 国土交通省の公共事業改革への取り組み

などを通じ, すでに計画されている事業についても, 聖域なき検討の対象とし, どの事業に重点化すべきか, なにを優先すべきか, 計画どおり貫徹すべきかなどについて国民的な議論を展開するとともに, 経済財政諮問会議の基本的な方針や都市再生本部の検討などとも整合をとりながら, 平成13年度末をめどに『21世紀国土交通のグランドデザイン』を成案としてとりまとめ, 公表する予定である。

(参考)

国土交通省 HP での掲載場所(トップページ)
インフォメーション

『21世紀国土交通のグランドデザイン(案)』
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/grand-design/granddesign001_.html

『国土交通のビジュアル・マップ(案)』の構成

- 1) 地方の概要
 - ・地域の動向，課題，目指すべき方向，重点プロジェクトなどを記載
- 2) 21世紀初頭における国土交通の姿(マップ)
 - ・国土交通省として重点的に取り組み，概ね10年後に完成を図るべき事業を記載(参考として，10年前の姿，現在の姿，主要な計画・構想も示している)
- 3) 整備効果に関する資料(参考)
 - ・概ね10年後の姿が実現した時の主たる整備効果について整理
- 4) 政策課題別主要プロジェクト表(参考)
 - ・『国土交通の将来像(案)』で整理した，国土交通行政の5つの目標，政策課題別に，各地方で実施すべき主要プロジェクトを体系的に整理

図 3 国土交通のビジュアル・マップ(案)の事例(東北地方)

